



SAFE COMMUNITY TSURU CITY



防犯対策委員会



発表日 2025年8月8日(金)

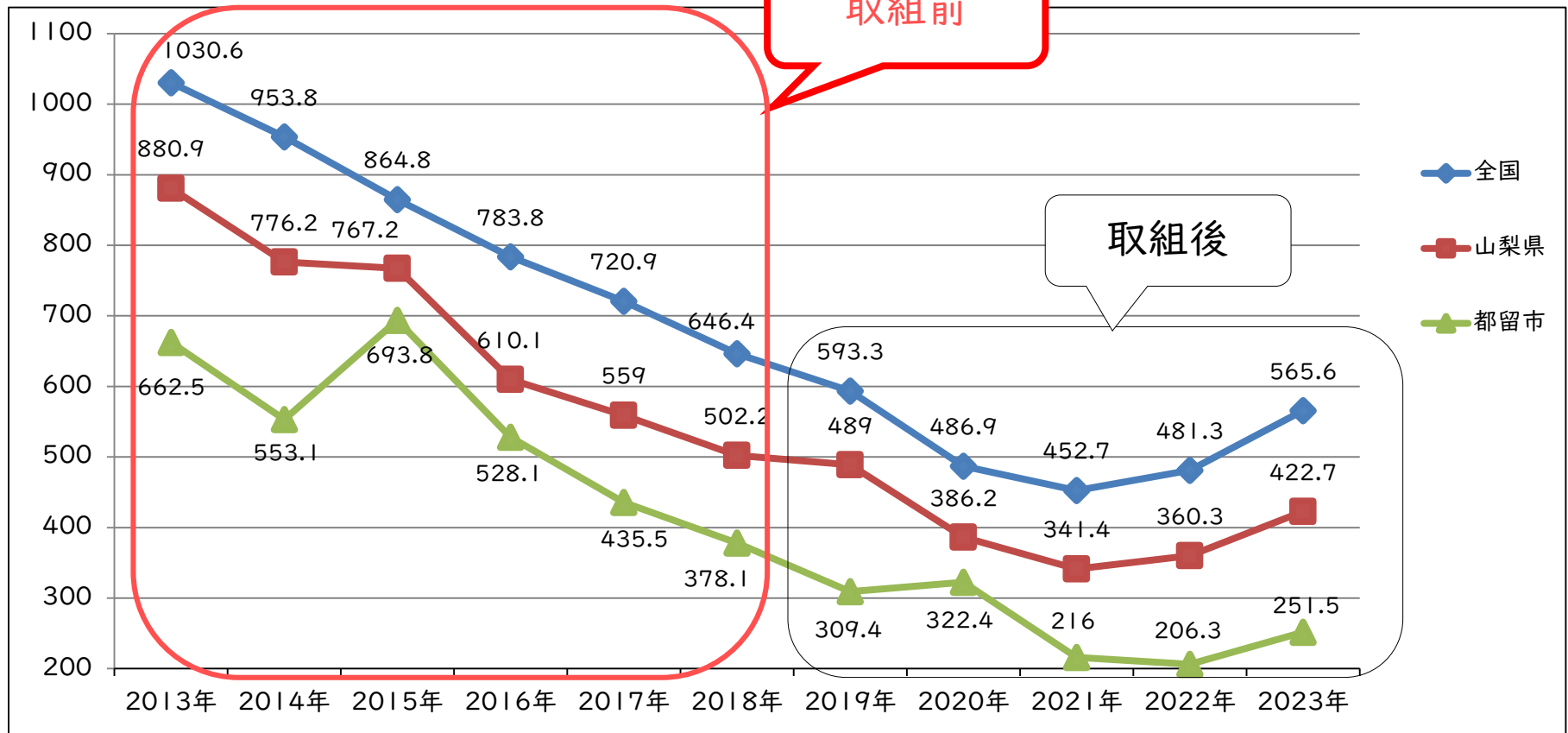
発表者 防犯対策委員会

委員長 野木 忠一

設置の背景1-1

人口10万人あたりの犯罪認知件数は全国や山梨県と比べて少ない。

図表1 刑法犯認知件数(人口10万人あたり)



キックオフ

認証

出典:警察犯罪統計データ
(2013~2023)

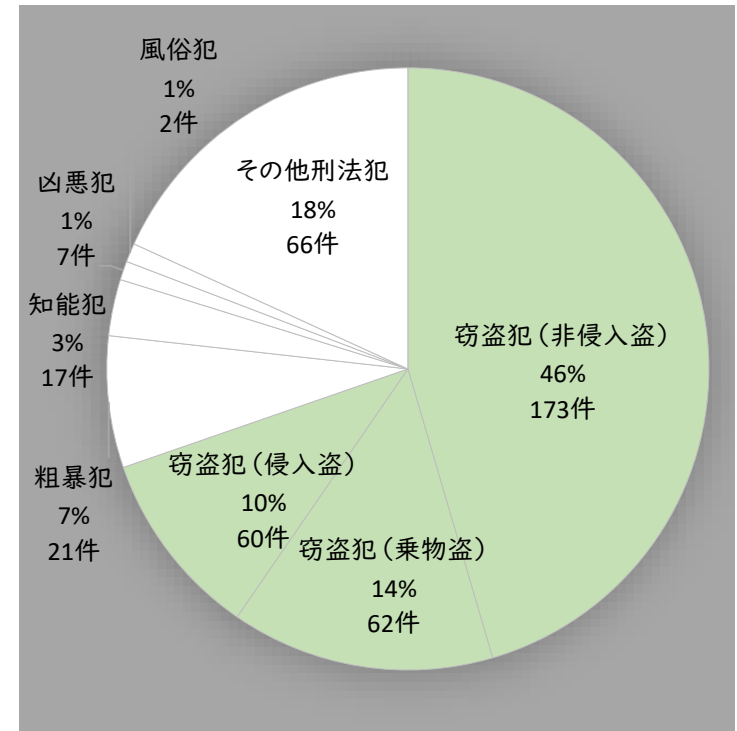
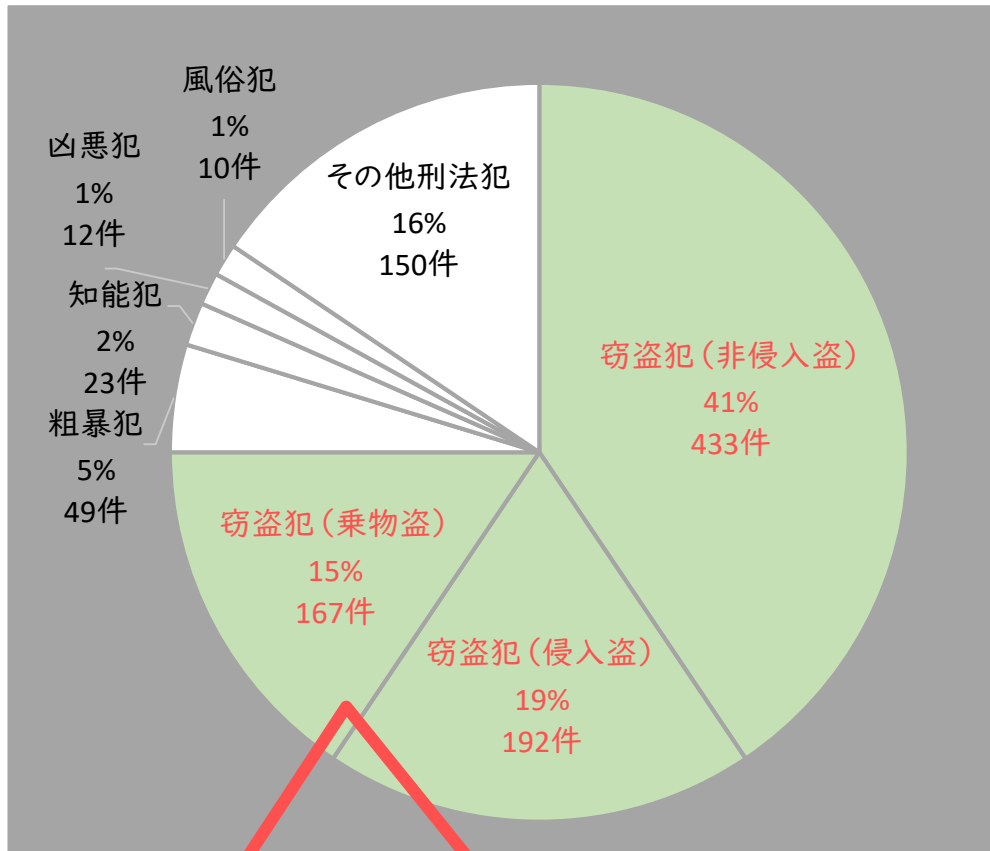
設置の背景1-2

市内の犯罪種別では「窃盗犯」の発生率が高い

図表2 刑法犯罪種別割合
2013~2018(n=1036)

取組による変化

2019~2023(n=408)

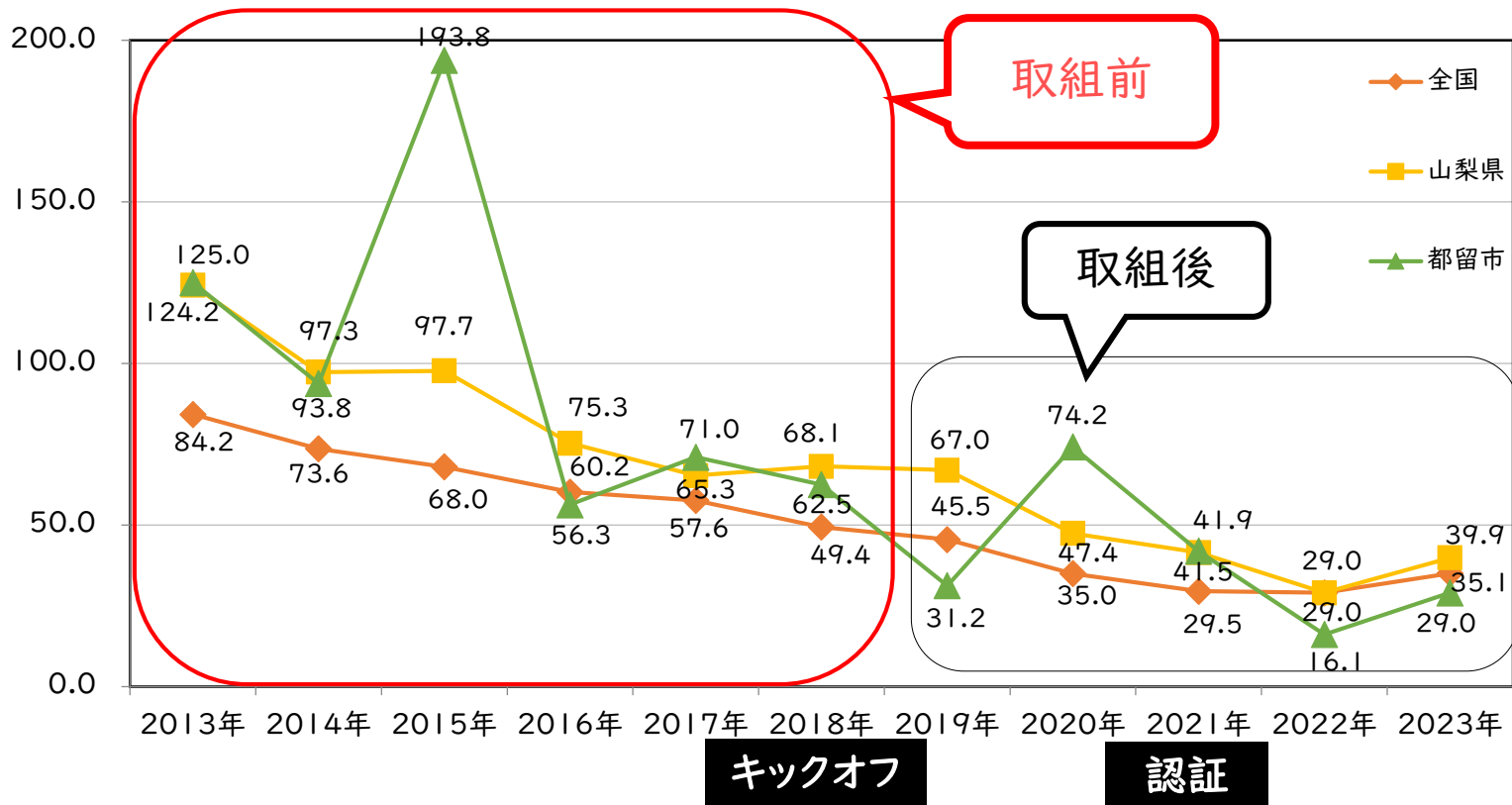


都留市での発生犯罪の70%以上が窃盗犯

設置の背景1-3

窃盗犯のうち侵入盗は全国や山梨県に比べて多い。

図表3 刑法犯罪種別認知件数 窃盗犯うち侵入盗(人口10万人あたり)

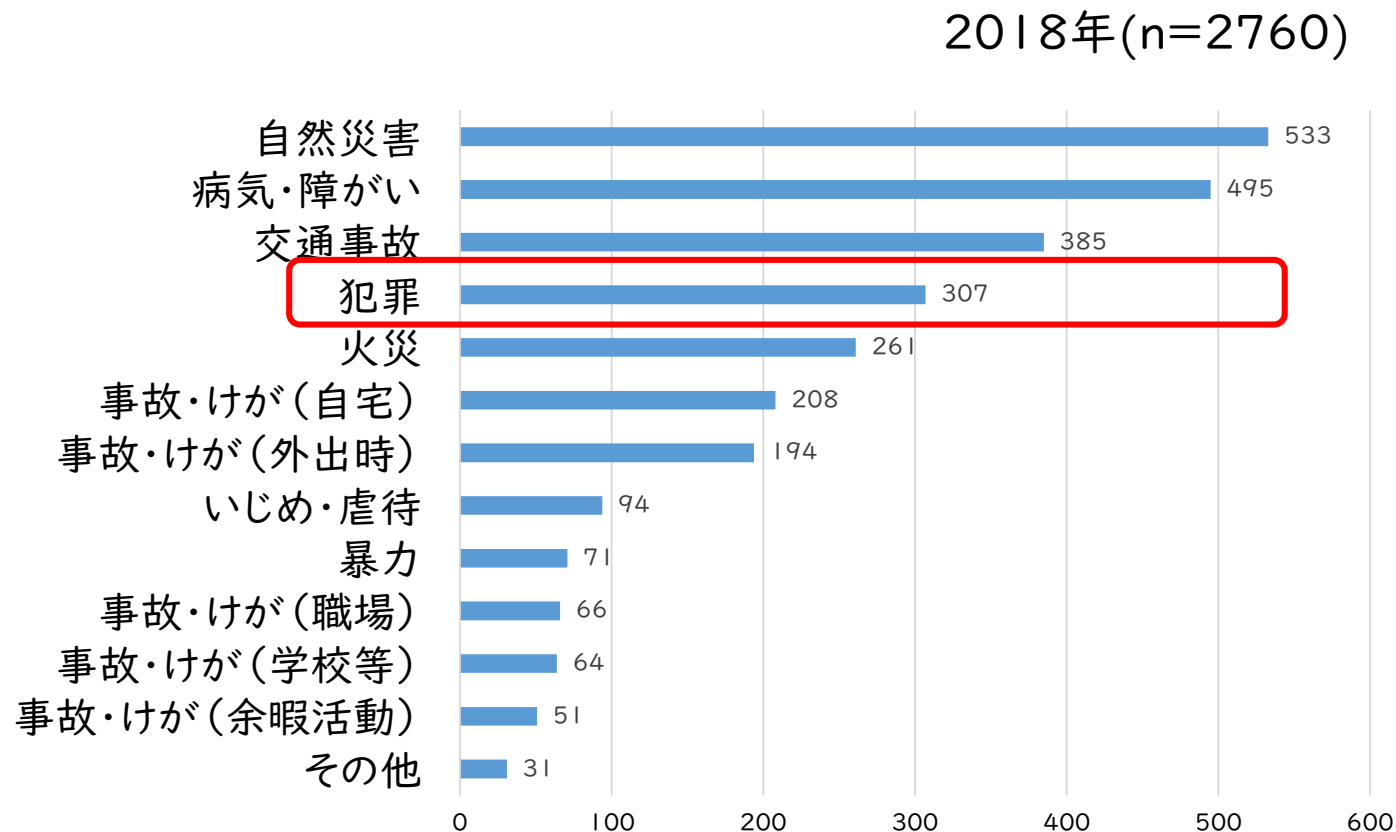


出典:警察統計データ
(警察庁)/2013~2023

設置の背景2

市民が不安に思う事柄で「犯罪被害」は上位4番目であり、市民の不安感が高い。

図表4 都留市での生活で不安を感じること

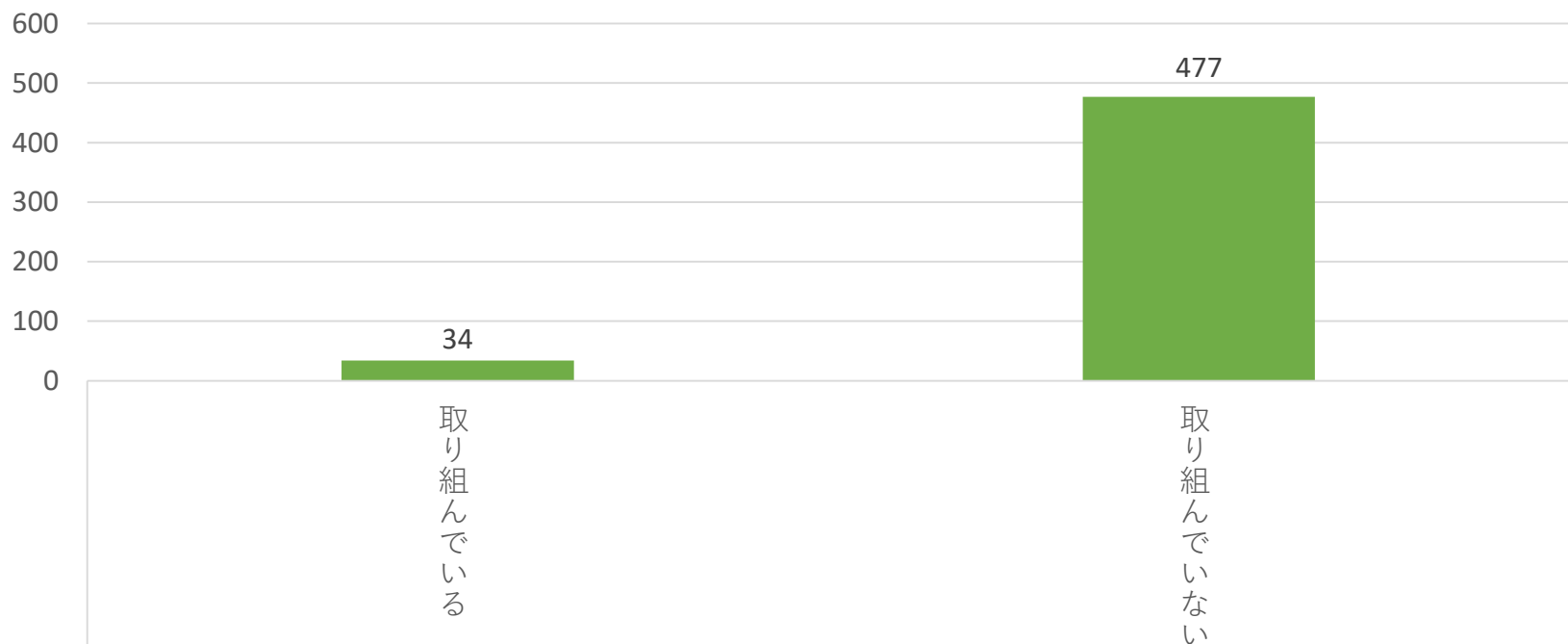


出典:安全・安心なまちづくりアンケート問20(地域環境課)/2018

設置の背景3

「犯罪被害」を不安に思う人が多い一方で、
防犯に関する取り組みを行う人が少ない

図表5 防犯活動に取り組んでいる人数 2018年(n=511)



・防犯に関する取り組みを行っている人の割合は10%未満となっている。

設置の背景まとめ

- ・人口10万人あたりの犯罪認知件数は全国や山梨県と比べて少ないが、窃盗犯のうち侵入盗は全国や山梨県に比べて多い。（図表3）
- ・市民が不安に思う事柄で「犯罪被害」は上位であり、市民の不安感が高い。（図表4）
- ・「犯罪被害」を不安に思う人が多いが、防犯活動に関する地域活動に取り組む人が少ない。
（図表5）

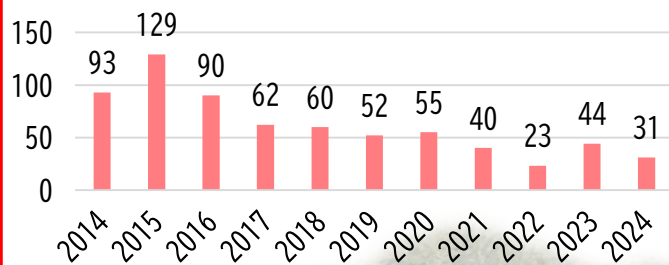
データに基づく問題Ⅰ

- ・駐在所別では上谷交番管内が多い

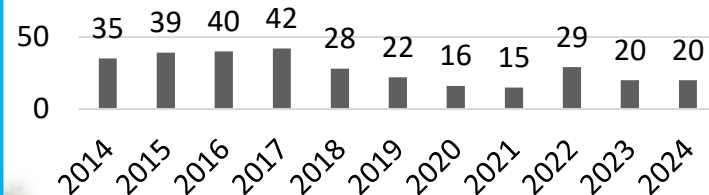
図表6 市内駐在所別刑法犯認知件数 (2013~2023年)

★ ⇒大学、大学校

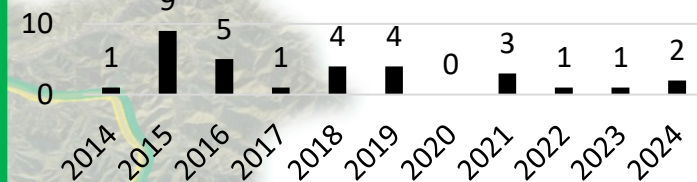
上谷(都留文科大学前)



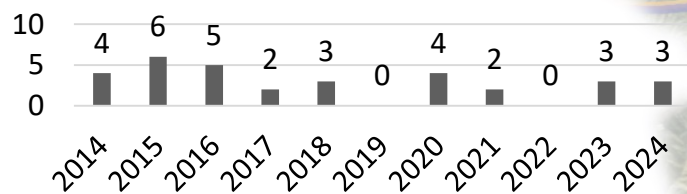
禾生



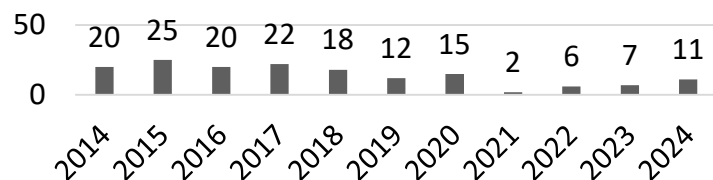
盛里



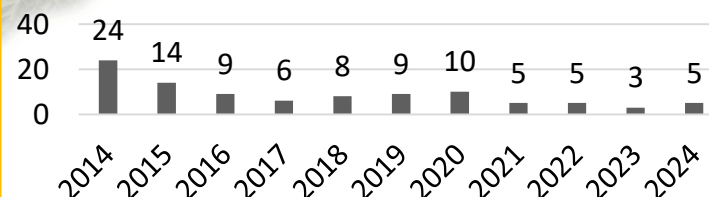
宝



東桂



住吉



出典: 山梨県警察/2013年~2023年

データに基づく問題2-1

・窃盗犯の中の「侵入盗」では「空き巣・忍び込み」が多い

図表7 侵入窃盗種類別割合

取組による変化

2013～2018年(n=199)

	上谷 (文大駅前)	東桂	住吉	禾生	盛里	宝	計
空き巣	29	14	11	17	7	4	82
忍込み	27	11	4	0	1	2	45
居空き	2	1	1	0	0	0	4
事務所荒し	6	2	3	5	2	1	19
出店荒し	8	5	0	9	0	0	22
その他	5	3	4	9	5	1	27
計	77	36	23	40	15	8	199

2019～2023年(n=60)

	上谷 (文大駅前)	東桂	住吉	禾生	盛里	宝	計
空き巣	7	2	0	2	1	1	13
忍込み	10	1	5	2	0	2	20
居空き	7	2	0	0	0	0	9
事務所荒し	1	1	0	1	0	1	4
出店荒し	0	0	0	2	0	0	2
その他	7	1	0	2	2	0	12
計	32	7	5	9	3	4	60

出典：山梨県警察 / 2013年～2023年

データに基づく問題2-2

・非侵入盗では「自転車盗」、「万引き」が多い

図表8 非侵入窃盗種類別認知件数割合

2013~2018年(n=605)

取組による変化

2019~2023年(n=231)

	上谷 (文大前駅)	東桂	住吉	禾生	盛里	宝	計
部品狙い	14	4	4	5	0	0	27
色情狙い	11	5	0	1	0	0	17
自動車盗	5	1	6	6	4	2	24
オートバイ盗	12	1	4	2	0	0	19
自転車盗	86	12	8	18	0	0	124
車上狙い	13	9	2	9	2	2	37
置引き	15	2	3	13	0	1	34
自動販売機狙い	5	5	0	2	1	1	14
万引き	108	15	3	49	0	2	177
その他	67	7	12	33	9	4	132
計	336	61	42	138	16	12	605

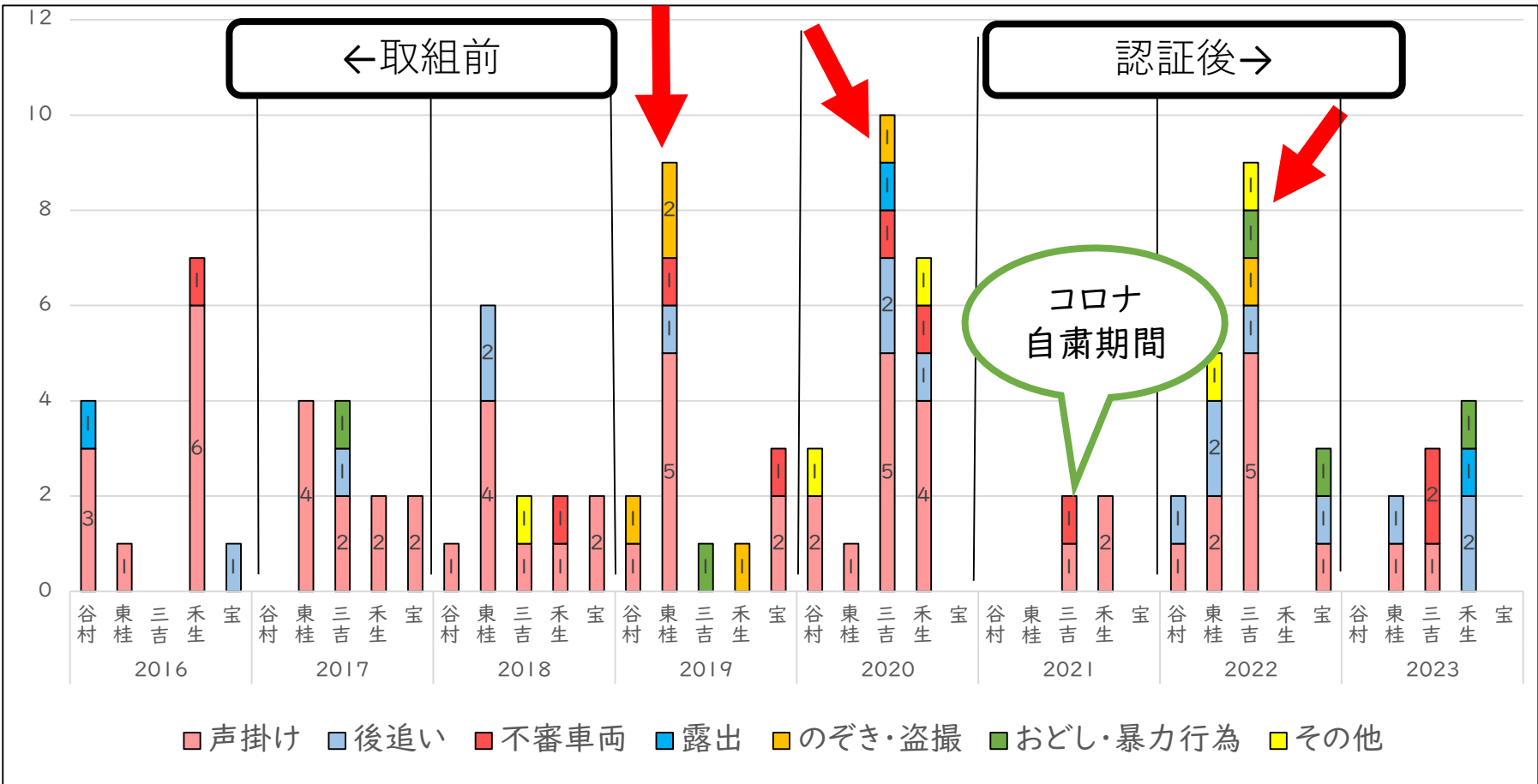
	上谷 (文大前駅)	東桂	住吉	禾生	盛里	宝	計
部品狙い	1	2	0	1	0	0	4
色情狙い	4	0	0	0	0	0	4
自動車盗	2	0	1	0	0	0	3
オートバイ盗	4	0	0	1	0	0	5
自転車盗	43	5	0	4	0	0	52
車上狙い	0	1	0	1	0	0	2
置引き	2	0	0	4	0	0	6
自動販売機狙い	0	0	0	4	0	1	5
万引き	44	0	5	41	0	0	90
その他	28	9	6	15	1	1	60
計	128	17	12	71	1	2	231

出典：山梨県警察/2013年~2023年

データに基づく問題3-1

・不審者情報が三吉地域と東桂地域で多い

図表9 教育委員会 不審者等情報通報状況(2016年4月～2024年3月)



出典:都留市教育委員会 学校教育課
/2016～2023

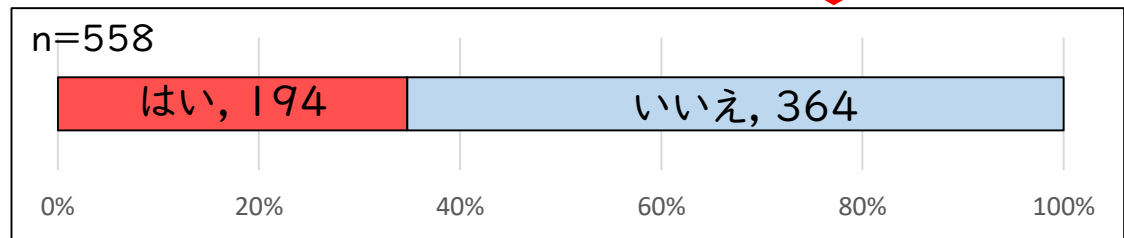
データに基づく問題3-2

- ・不審者に声をかけられたことがある学生が多い
(都留文科大学周辺)
- ・不審者対策を望んでいる学生が多い

約3割の学生が
「はい」と回答

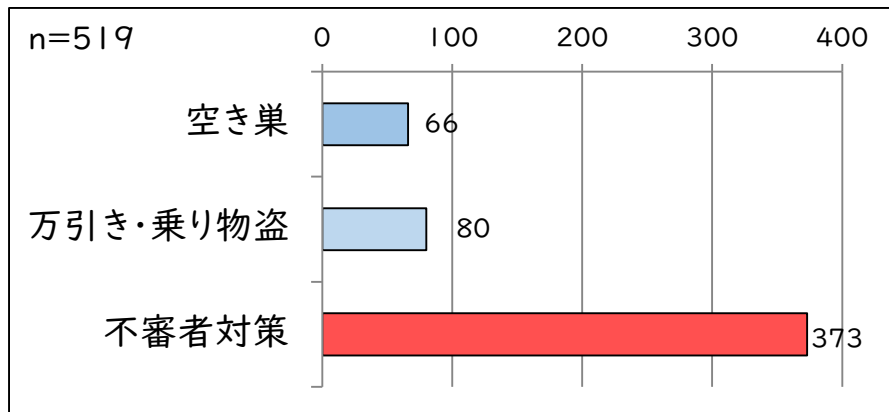
【図表10】

あなたはこれまでに見知らぬ人に
声をかけられたことがありますか



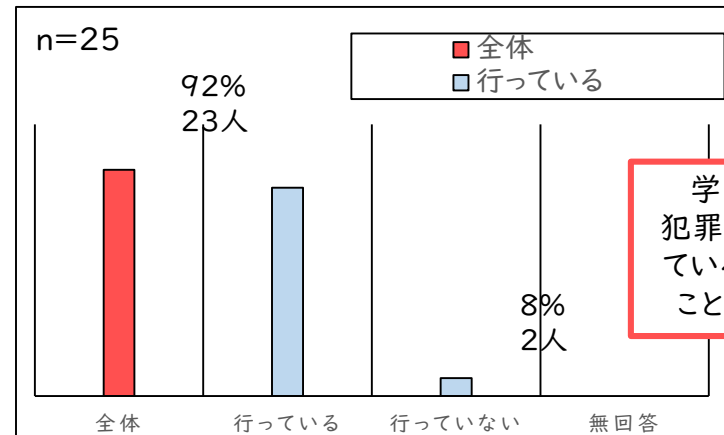
【図表11】

学生の立場から、対策が重要だと考える課題は何ですか



【図表12】

学生自身で何か防犯対策を行っているか
(不審者対策以外も含む)



学生自身も
犯罪に気を付けて
いる人が多い
ことがわかる。

データに基づく問題4

- ・詐欺に関する市民からの相談は減少傾向にあるがアポ電及び詐欺被害の件数は増加、詐欺被害がなくなる。

図表13

消費生活相談窓口への詐欺等に関する相談件数(2015~2023年度)

年度	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
件数	30	44	101	104	95	106	74	82	69

図表14

詐欺と思われるアポ電件数(2018~2023年度)

年度	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
件数	8	11	35	25	21	30

詐欺被害件数
2021年:2件
2022年:1件
2023年:6件
2024年:6件

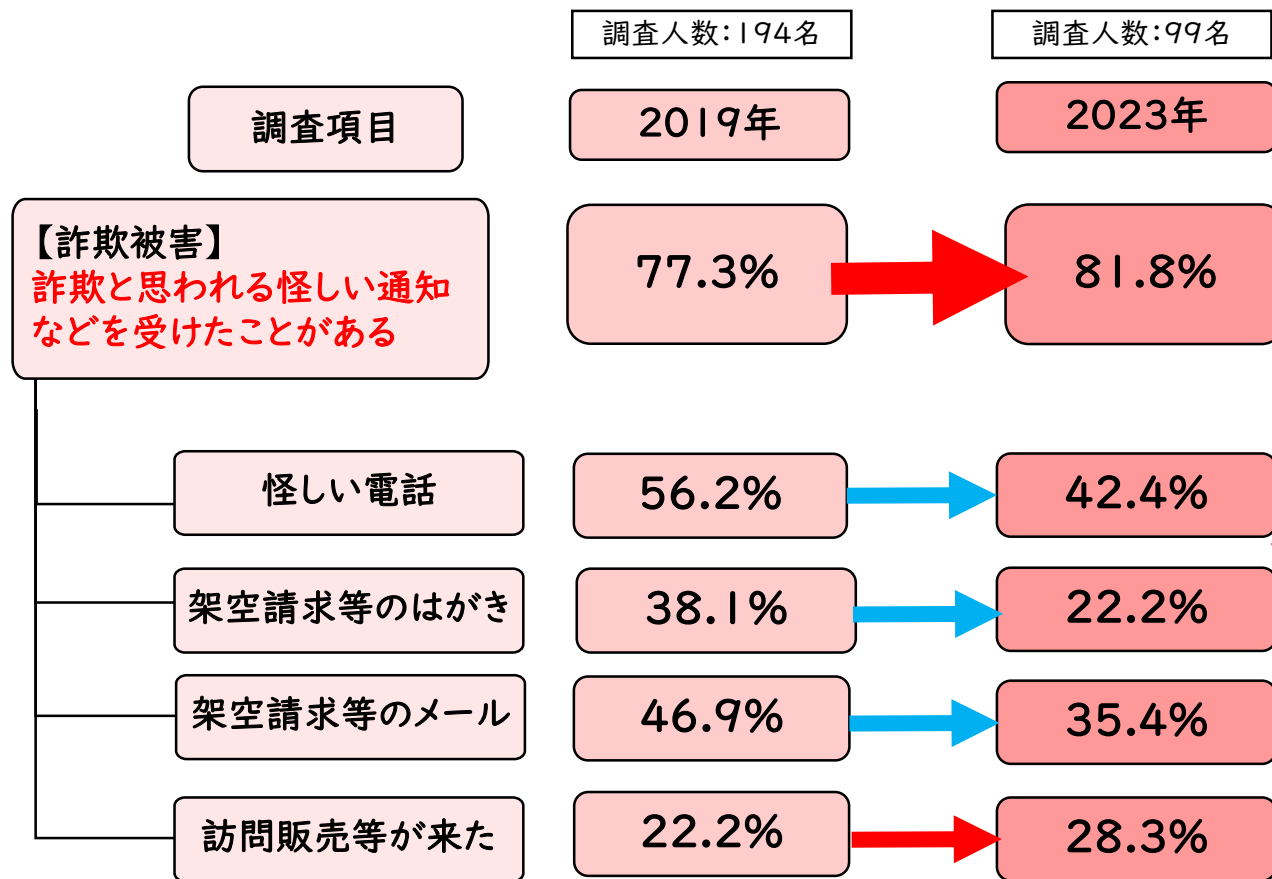
アポ電とは・・・

犯人グループが親族や警察、役所や金融機関の職員などになりすまし、犯行を行う前に家の状況や資産を把握する目的でかける電話のこと。

出典:図表13 消費生活相談窓口データ/2015~2023
図表14 山梨県警察/2018~2023

・詐欺と思われる怪しい通知などを受けたことがある人の割合が増加

図表15 イベントでの詐欺に関するアンケート調査



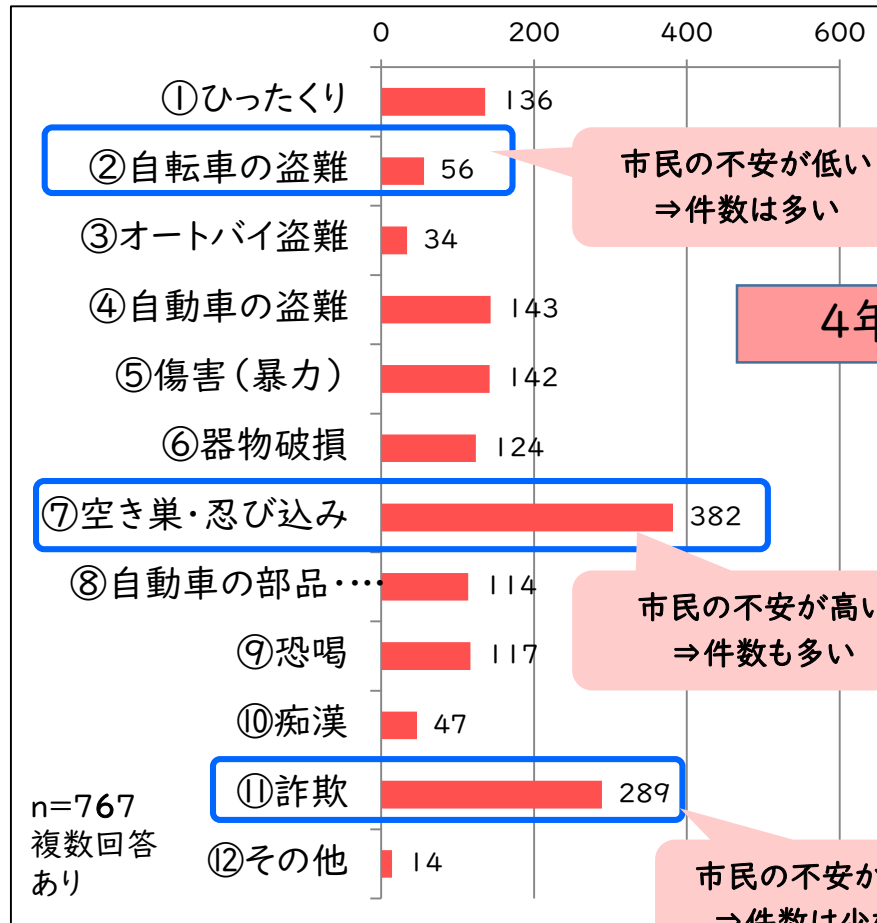
怪しい電話や架空請求等のはがきやメールの割合は減少。詐欺と思われる通知などを受けたことのある人の割合は増加。
→詐欺の手段が多様化
様々な場面で詐欺被害や消費生活トラブルに巻き込まれる可能性がある

データに基づく問題5

犯罪の発生状況と市民の犯罪に対する不安は一致していない

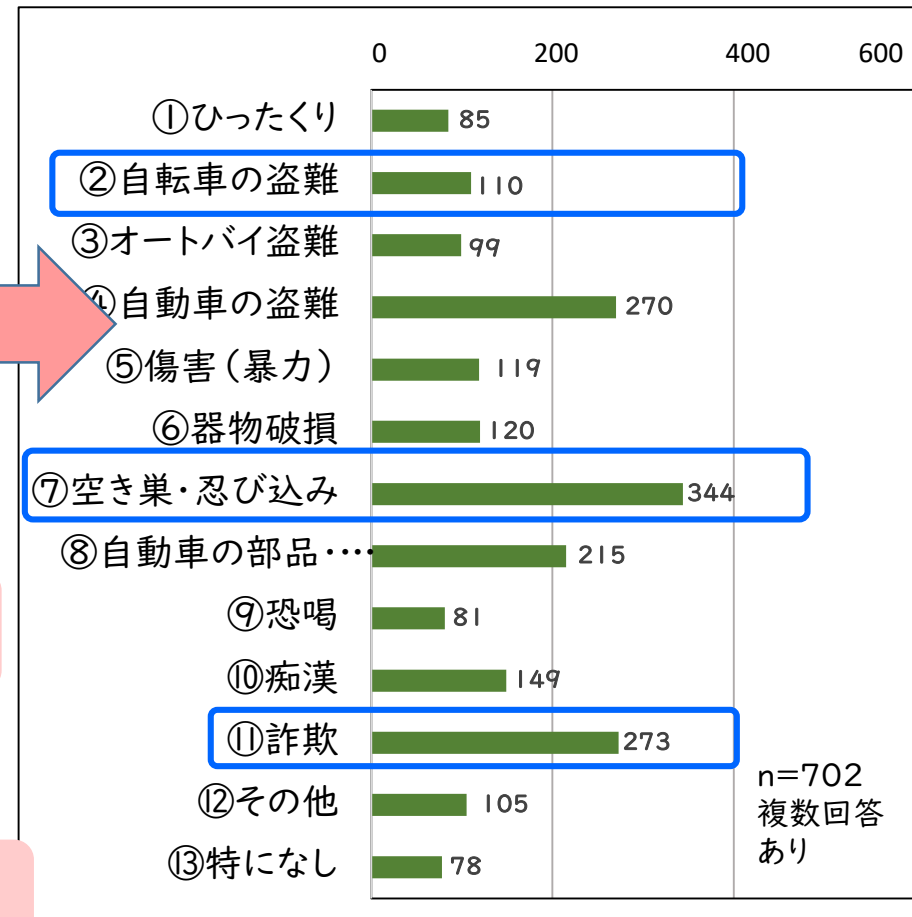
【図表16】

犯罪被害に対して不安を感じている事柄(2018)



【図表17】

犯罪被害に対して不安を感じている事柄(2022)



4年後

防犯対策委員会の構成

区分	団体・組織名	
住民組織 民間団体等	青色防犯パトロール隊	青少年育成都留市民会議
	都留市消防団	谷村地域協働のまちづくり推進会
	宝地域協働のまちづくり推進会	都留市青少年カウンセラー
	富士急山梨ハイヤー株式会社 (公共交通事業者)	学生自治会執行委員会 (都留文科大学)
	都留市消費生活相談員	こども安全たんけん隊
	リズムオブラブ	
行政機関	都留市小中学校校長会	大月警察署生活安全課
	都留市消防本部消防課	地域防犯推進員(地域環境課所属 防犯対策の専門員)
	市(地域環境課、福祉課、産業課) 都留文科大学(学生支援課)	

NEW!

問題を解決するための課題

データに基づく問題		課題
・都留市では窃盗犯の発生が多い。	図表 7.8	窃盗被害等にあわないための防犯意識の向上
・不審者被害がなくなる。	図表 9	不審者から身を守るための行動・知識を身につける
・アポ電と詐欺被害は年々増加。	図表 13.14	詐欺被害に関する防犯意識の向上
・市民の犯罪に対する不安と実際の犯罪発生件数は必ずしも一致しない。	図表 16.17	都留市における犯罪の実情を理解した、正しい防犯対策の実施

課題に対する取り組み

No.	課題	取り組み	ハイリスク対象
1	窃盗被害等にあわないための防犯意識の向上	①家庭や地域での防犯対策の推進	全市民
2	不審者から身を守るための行動・知識を身につける	②学生の見守り強化	大学生
		③「健康・安全・郷育プログラム」の拡充	小学生以下の子どもたち
3	詐欺被害に関する防犯意識の向上	④電話詐欺防止など消費生活の安全向上	高齢者
4	都留市における犯罪の実情を理解した、正しい防犯対策の実施	①家庭や地域での防犯対策の推進	全市民

課題1・4に対するレベル別対策

課題	対策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
課題1 窃盗被害等にあわないための防犯意識の向上 課題4 都留市における犯罪の実情を理解した、正しい防犯対策の実施	啓発教育	◆警察パトロール ◆全国地域安全運動 ◆ふじ君安心メール ◆山梨県青少年の非行・被害防止全国強調月間 ◆再犯防止啓発月間	◆青色防犯パトロール ◆防犯カメラ設置補助金 プログラム① 家庭や地域での防犯対策の推進	
	環境整備	◆山梨県再犯防止推進計画の作成(令和2年作成)	◆都留市再犯防止推進計画の作成(令和4年成) ◆防犯カメラ設置補助金 ◆防犯灯設置補助金 プログラム① 家庭や地域での防犯対策の推進	◆防犯カメラ設置(自治会単位) ◆防犯灯設置(自治会単位)
	規則・罰則	◆刑法第235条(窃盗罪) ◆山梨県安全・安心なまちづくり条例	◆都留市生活安全条例 ◆セーフコミュニティ認証	

環境面への取り組み

都留市防犯カメラ設置補助金

自治会から設置要望を基に、地域の犯罪抑止のため「防犯カメラ」を設置するための補助金を市で設置している。

補助対象経費

1基につき費用金額の1/2を補助

上限額 15万円

実績

	団体名	設置カメラ台数	交付額
2016年	楽山自治会	2	300,000
2021年	新井自治会	1	130,000
2022年	楽山自治会	2	294,000
2023年	蒼竜峡自治会	1	150,000
	境自治会	1	150,000
2024年	上大幡自治会	2	161,000
合計	のべ6団体	9	1,185,000

before



after



全国・国レベルの取り組み

地域安全フェスタへの参加

全国地域安全運動の一環で、大月警察署主催の啓発運動



課題2に対するレベル別対策

課題	対策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
課題2 不審者から身を守るための行動・知識を身につける	啓発教育	◆警察パトロール ◆ 全国地域安全運動 ◆山梨県青少年の非行・被害防止全国強調月間	◆青色防犯パトロール プログラム② 学生の見守り強化 (大学生を孤立させない支援活動)	◆スクールガードの登の登下校の見守り プログラム③ 「健康・安全・郷育プログラム」の拡充
	環境整備		◆不審者情報連絡体制の構築 (警察←大学→市) (警察←小中学校→市) ◆防犯カメラ設置補助金 ◆防犯灯設置補助金	◆安全な通学路の構築 (各小中学校) ◆防犯灯設置 (自治会単位) ◆防犯カメラ設置 (自治会単位)
	規則・罰則	◆山梨県迷惑防止条例 ◆山梨県安全・安心なまちづくり条例	◆都留市生活安全条例 ◆セーフコミュニティ認証	

課題3に対するレベル別対策

課題	対策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
課題3 詐欺に関する防犯意識の向上	啓発教育	◆警察パトロール ◆全国地域安全運動 ◆チラシ・ポスター作成	◆消費生活相談窓口 (都留市役所 市民課)	
			プログラム③「健康・安全・郷育プログラムの拡充」	
			プログラム④ 電話詐欺防止など消費生活の安全向上 ・出前講座での啓発活動 ・詐欺撲滅体操による周知活動	
	環境整備	◆電話詐欺対策機器貸出事業 (山梨県警察)	◆消費生活相談窓口の設置 (都留市役所 市民課) ◆都留市特殊詐欺被害防止対策機器設置費補助金	
			プログラム④ 電話詐欺防止など消費生活の安全向上 電話詐欺被害防止機器補助金の周知	
	規則・罰則	◆刑法第246条(詐欺) ◆山梨県安全・安心なまちづくり条例	◆都留市生活安全条例 ◆都留市特殊詐欺被害防止対策機器設置費補助金交付要綱	

環境面への取り組み

電話詐欺対策機器貸出事業(県レベル)

電話詐欺抑止装置の無償貸し出しを行っている。

1.貸出対象者

県内居住のおおむね65歳以上の方

2.貸出方法

最寄りの警察署で申請

3.貸出期間

4ヶ月間

電話詐欺抑止装置

設置した世帯では、
電話詐欺の被害なし!!

《機能と効果は?》
“通話を録音する”と犯人に警告
犯人が電話をかけると、着信音
が鳴る前に「この電話は振り込め
詐欺防止のため、会話内容が自動
録音されます。」と警告メッセ
ージが流れます!

録音されるのを嫌がる犯人が、自ら電話を切断
犯人が自分の声を録音されるのを嫌がって電話を切ると、着
信音が鳴らないので、設置した世帯では不要な電話を門前払い。
つまり、電話詐欺犯人と会話せずに済みます!

無償で貸し出します!

- 貸出対象 山梨県内にお住まいの65歳以上の方
- 貸出期間 4か月間

ご家族からのお問い合わせもお待ちしております

問合せ先: 〇〇警察署 TEL: 055-〇〇〇-XXXX



都留市特殊詐欺被害防止 対策機器設置費補助金(市レベル)

通話の内容を自動的に録音する機能を有する電
話機器購入費用の一部負担する補助金

補助対象経費

限度額:20,000円

実績

年度	2020	2021	2022	2023	2024
申請件数	199	49	39	37	13

イメージ写真



補助金周知活動の様子



プログラムの運営状況

区分	進行状況				
	2021年 認証	2022年	2023年	2024年	2025年 事前指導
プログラム(1) 防犯カメラの設置促進				→ プログラム(4)と統合	
プログラム(2) 「学生見守りの家」による見守り活動				→ 活動名変更 プログラム②へ	
プログラム(3) 「健康・安全・郷育プログラム」の拡充				継続 プログラム③へ	→
プログラム(4) 防犯対策の周知				→ プログラム(1)と併せてプログラム①へ	
プログラム(5) 電話詐欺防止など消費生活の安全向上				継続 プログラム④へ	→

プログラム① 家庭や地域での防犯対策の推進		NEW!		開始	→
プログラム② 学生の見守り強化 (大学生を孤立させない支援活動)		NEW!		開始	→
プログラム③ 「健康・安全・郷育プログラム」の拡充					
プログラム④ 電話詐欺防止など消費生活の安全向上					

プログラム① 家庭や地域での防犯対策の推進

課題	都留市における犯罪の実情を理解した、正しい防犯対策の実施	
目標	年間窃盗罪認知件数の減少及び犯罪に対する市民の体感治安の向上	
内容等	関係機関と連携を取りながら、窃盗被害等防止のための啓発活動の展開	
	【対象】	全年齢層の市民
	【人材】	山梨県警察、青色防犯パトロール、都留市など
区分	指標【方向性】	測定方法
(短期) 認識や知識の変化	都留市の犯罪状況を知っている人の割合	・アンケート
(中期) 態度や行動の変化	防犯対策を行っている人の割合 防犯カメラの設置実績	・アンケート ・市民意識調査
(長期) 状態や状況の変化	・窃盗罪認知件数 ・窃盗罪に対する体感治安 (不安感の減少)	・山梨県警察犯罪統計 ・市民意識調査

プログラム①活動内容

■ 出前講座や各種イベントでの啓発活動

出前講座で寸劇を用いて空き巣・忍び込みの対策、詐欺の防止などについて発表したり、イベントで防犯グッズを配布しながら啓発活動、アンケート調査を行っている。

出前講座の様子



イベントでの啓発活動の様子



プログラム①の評価

年		2021(認証)	2022	2023	2024
アウトプット (活動指標)	活動の実施回数 啓発物品等の配布数	・出前講座2回 29人 ・啓発物品 100部配布 ・チラシ700部配布	・出前講座1回 16人 ・チラシ400部配布	・ふれあい講座5回 83人 ・産業まつり 啓発物品を200部配布 ・地域安全フェスタへの参加(大月警察署にて)	・ふれあい講座5回 74人 ・8月 SCつるまつり 発表 ・産業まつり 啓発物品を200部配布 ・地域安全フェスタへの参加(大月警察署にて)
	意識・知識(短期) (犯罪の状況を知っている人) 対策委員会のアンケート調査	—	—	出前講座アンケート合計 (n=30) 知っている人 23.3%	出前講座アンケート合計 (n=60) 知っている人 22.0%
	態度・行動(中期) (防犯対策を行っている人の割合)(防犯カメラの設置実績) 市民意識調査アンケート	防犯カメラ1台	市民意識調査(n=702) 88.6%(622/702) 防犯カメラ2台	出前講座アンケート (n=30) 83.3%(25/30) 防犯カメラ2台	出前講座アンケート (n=60) 80%(40/60) 防犯カメラ2台
アウトカム (成果指標)	状況(長期) (刑法犯認知件数、体感治安) 警察統計、市民意識調査アンケート	認知件数 66件 空き巣・忍び込み 9件 万引き 14件 自転車盗 5件	認知件数 64件 空き巣・忍び込み 2件 万引き 16件 自転車盗 12件 市民意識調査(n=601) 空き巣・忍び込み 75.9% 自転車盗 13.5%	認知件数 78件 空き巣・忍び込み 5件 万引き 16件 自転車盗 14件	認知件数72件 空き巣・忍び込み 件 (確認中) 万引き12件 自転車盗13件

プログラム② 学生の見守り強化（大学生を孤立させない支援活動）

課題	不審者から身を守るための行動・知識を身につける	
目標	刑法犯認知件数の減少、犯罪に対する体感治安の向上及び不審者情報の減少	
内容等	・大学生への見守り活動 ・学生が不安に思っていることの聞き取り ・大学生と地域を繋ぐコミュニティの形成	
	【対象】	都留文科大学 学生
	【人材】	山梨県警察、青色防犯パトロール、都留文科大学など
区分	指標【方向性】	測定方法
（短期） 認識や知識の変化	見守り活動を知っている人の割合	・アンケート
（中期） 態度や行動の変化	大学生自身が防犯対策を行っている人の割合	・アンケート
（長期） 状態や状況の変化	・刑法犯認知件数 ・犯罪に対する体感治安 ・不審者情報	・山梨県警察犯罪統計 ・安全・安心なまちづくりアンケート ・都留市教育委員会不審者情報 ・都留文科大学不審者情報

プログラム②活動内容

■コミュニティカフェ

都留文科大学施設内に学生と対話できるブースを設け、学生の悩みを聞き、関係機関に繋げたり、防犯対策に関する啓発活動を行っている。

コミュニティカフェの様子



警察と防災・減災対策委員会とのコラボの様子2023



プログラム②の評価

年		2021(認証)	2022	2023	2024
アウトプット(活動指標)	活動の実施回数 啓発物品等の配布数 青色防犯パトロール対応件数	・聞き取り調査 約90名	・コミュニティカフェ 実施	・コミュニティカフェ 実施(6月・11月) 聞き取り学生数:7名 ・青色防犯パトロール 対応件数:10件	・コミュニティカフェ 実施(6月・11月) 聞き取り学生数:25名 ・青色防犯パトロール 対応件数:8件
	意識・知識(短期) (見守り活動の認知度) 対策委員会のアンケート調査	—	—	—	大学でのアンケート (n=25) 12%(3/25)
	態度・行動(中期) (防犯対策を行っている大学生) 対策委員会のアンケート調査	—	—	—	大学でのアンケート (n=25) 92%(23/25) 2025年度より毎年 学生アンケートを実施
アウトカム(成果指標)	状況(行動) (刑法犯認知件数、体感治安) 警察統計、意識調査 不審者情報(都留市教育委員会、都留文科大学より)	空き巣・忍び込み 9件 自転車盗 5件 不審者情報 4件	空き巣・忍び込み 2件 自転車盗 12件 不審者情報 16件 意識調査(n=702) 20.0%(141/702)	空き巣・忍び込み 5件 自転車盗 15件 不審者情報 8件	空き巣・忍び込み 件 (確認中) 自転車盗 13件 不審者情報 14件

プログラム③ 「健康・安全・郷育プログラム」の拡充

課題	不審者から身を守るための行動・知識を身につける	
目標	不審者情報の減少、体感治安の向上	
内容等	「健康・安全・郷育プログラム」の提供	
	【対象】	小学生、未就学児（子どもたちの保護者も対象）
	【人材】	リズムオブラブ、山梨県警察、都留市など
区分	指標【方向性】	測定方法
（短期） 認識や知識の変化	プログラムを受けた人の 定着度・内容理解	・対策委員会でのアンケート
（中期） 態度や行動の変化	プログラムで学んだ 防犯対策の実施状況	・対策委員会でのアンケート 今年度から子どもたちにアンケートを実施する予定（受講後1年をめぐに）
（長期） 状態や状況の変化	不審者情報 体感治安の向上	・都留市教育委員会不審者情報 ・都留文科大学不審者情報 ・アンケート

プログラム③活動内容

■「健康・安全・郷育プログラム」の拡充

市内の小学生以下の子どもたちに「いのちの大切さ」と
「いのちを守る方法」を伝えるプログラムを行う。

市内保育園小学校でのプログラムの様子



プログラム③の評価

年		2021(認証)	2022	2023	2024
標 アウトプット(活動指)	活動の実施回数 啓発物品等の配布数	・小学校2校 47名	・小学校4校 80名程度	・小学校4校 合計:150名程度 (保護者含む) ・保育所・幼稚園 2回 53名 ・青色防犯パトロール 対応件数:10件	・小学校2校 合計:54名 (保護者含む) ・田原交流センターnicot 親子4名 ・青色防犯パトロール対 応 件数: 8件
アウトカム(成果指標)	意識・知識(短期) (プログラムを受けた人の意識 の定着度・内容理解) 対策委員会のアンケート調査	—	—	—	アンケート(n=13) 46%(6/13)
	態度・行動(中期) (プログラムで学んだ防犯対策 の実施状況) 対策委員会のアンケート調査	—	—	—	アンケート(n=13) 46%(6/13) 今年度から子どもたちにアンケートを 実施する予定(受講後1年をめに)
	状況(長期) (不審者情報) 都留市教育委員会・都留文科 大学より	不審者情報 4件	不審者情報 16件	不審者情報 8件	不審者情報 14件 不審者に対する体感治安を測る ため、新しい指標を検討中

プログラム④ 電話詐欺防止など消費生活の安全向上

課題	詐欺被害に関する防犯意識の向上	
目標	詐欺対策を行っている市民の増加及び詐欺被害・アポ電件数の減少	
内容等	・電話詐欺防止等の消費生活に関する継続的な啓発活動の実施 ・財産の喪失だけでなくメンタルへのリスクを重要視	
	【対象】	高齢者（地域住民）
	【人材】	山梨県警察、リズムオブラブ、都留市消費生活相談員、都留市など
区分	指標【方向性】	測定方法
（短期） 認識や知識の変化	・詐欺対策が必要と認識している人の割合	・出前講座でのアンケート
（中期） 態度や行動の変化	・対策機器補助金申請者数 ・詐欺対策を行っている人の割合	・補助金申請件数 ・イベントでのアンケート調査
（長期） 状態や状況の変化	・詐欺被害件数 ・アポ電発生件数	・山梨県警察犯罪統計

プログラム④活動内容

■電話詐欺防止など消費生活の安全向上

市内の高齢者を中心に詐欺被害防止のための出前講座を行っている。また、市民課で取り扱っている「都留市特殊詐欺被害防止機器補助金」周知活動も行っている。

出前講座の様子（リズムオブラブによる）



都留市特殊詐欺被害防止機器補助金PRの様子



プログラム④の評価

年		2021(認証)	2022	2023	2024
アウトカム(成果指標)	活動の実施回数 啓発物品等の配布数	・出前講座2回 29人 ・啓発活動 物品100セット チラシ700部	・出前講座1回 16人 ・啓発活動 チラシ400部	・ふれあい講座5回 83人 ・産業まつり チラシ200部	・ふれあい講座5回 74名 ・8月SCつるまつり 発表 ・産業まつり チラシ200部 ・電話詐欺防止機器設置補助金PR活動1回
	意識・知識(短期) (詐欺対策が必要と認識している人の割合) 市民意識調査アンケート 対策委員会のアンケート		意識調査(n=143) 86%(123/143)		アンケート (n=81) 100%(81/81)
	態度・行動(中期) (対策を行っている人の割合) 補助金申請者数 市民意識調査アンケート 対策委員会のアンケート	補助金申請件数:49件 累計:248件	補助金申請件数:39件 累計:287件 意識調査(n=589) 「対策を行っている人」 75.7%(446/589)	補助金申請件数:37件 累計:324件 アンケート(n=99) 「対策器機設置率」 25.3%(25/99)	補助金申請件数:37件 累計:361件 アンケート(n=81) 「対策を行っている人」81% (66/81)
	状況(長期) (刑法犯認知件数、アポ電件数、体感治安) 警察統計 市民意識調査アンケート	詐欺被害 2件 アポ電 25件	詐欺被害 1件 アポ電 21件 意識調査(n=601) 詐欺に対する不安がある人45.4%(273/601)	詐欺被害 6件 アポ電 30件	詐欺被害 6件 アポ電 件 (確認中)

取り組みの成果①

項目	2013～2018年 合計	2019～2023年 合計	成果	参照
窃盗被害等にあわ ないための防犯意 識の向上 プログラム①	窃盗犯の発生792 件	295件	63%減少	図表2
	防犯対策を行ってい る人の割合 76.5% (平均)	84%	増加	27ページ より
不審者から身を守 るための行動・知 識を身につける プログラム②③	不審者情報13件 (平均)	不審者情報10件 (平均)	不審者に対する体感治安を測 るため、新しい指標を検討中	
詐欺被害に関する 防犯意識の向上 プログラム④	詐欺被害23件	詐欺被害18件	5件減少	—

取り組みの成果②

2024年度 安全・安心なまちづくり表彰受賞について

・この表彰は、県民の一人ひとりの防犯意識の高揚や防犯環境づくりの活動等を行い、その活動が広く他の模範となるとして、各市町村等から推薦された団体及び事業者の方々に贈られる、山梨県知事表彰

受賞団体(他3団体)の代表として委員長が登壇しました。



市長への表敬訪問時の記念撮影



現在の課題

1.非侵入窃盗(主に万引き、自転車盗)減少割合が低い

→万引き、自転車盗防止の啓発対象を分析し、啓発の仕方を検討する。

2.年によって差はあるが、不審者情報が減少しない。

→対策委員会独自のステッカーを作成し、配布して防犯活動の周知を図る。

3.プログラムを再編したため、各プログラムデータが不足している。

→評価の指標が定まったため、データ収集を継続し、柔軟な対応をしていく。

データの収集・分析、リスクアセスメント

2024年度外傷サーベイランス委員会安全診断の結果とそれに対する対応

安全診断の結果 (外傷サーベイランス委員会の評価)	対策委員会での対応
学生の立場から取り組んで欲しい防犯対策について、「犯罪の発生抑制として具体的に何をしてもらえば安全・安心か？」など具体的な要望まで聞き取り整理することで、より効果的な対策ができるのではないか。	防犯対策に関する具体的な要望を把握できるよう、アンケートの見直しを行い、学生の望む防犯活動を検討、実施できるようにする。 男女別でアンケートを実施する。
都留文科大学の学生は7割近くは女性であるため、具体的な声を拾い、詳細データの収集をお願いしたい。	

今後の取り組み

2021年 (認証)	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年 (再認証)
プログラム① 家庭や地域での防犯対策の推進					
【継続】 出前講座での啓発やイベント等での啓発物品の配布、防犯カメラの設置促進					
【検討】 万引き・自転車盗の啓発の方法検討					
プログラム② 学生の見守り強化(大学生を孤立させない支援活動)					
【継続】 コミュニティカフェでの学生の相談窓口や防犯対策の周知・啓発					
【検討】 啓発ステッカーの配布(不審者対策)					
プログラム③ 「健康・安全・郷育プログラム」の拡充					
【継続】 健康・安全・郷育プログラムの提供					
【検討】 啓発ステッカーの配布(不審者対策) データ収集の方法					
【拡大】 高齢者・保育園・幼稚園にもプログラム拡大					
プログラム④ 電話詐欺防止など消費生活の安全向上					
【継続】 出前講座、イベント等での啓発物品の配布、電話詐欺防止機器の補助金周知					



ご清聴
ありがとうございました。

都留市セーフコミュニティ
防犯対策委員会 一同